

施設見学会を終えて

8月25日、泉北ニュータウンの緑に囲まれた大阪障害者職業能力開発校に、30余名が伺いました。この施設は、職業能力開発促進法に基づいて国が設置し大阪府が委託運営する機関です。

身体障がい者（OAビジネス20名、CAD製図20名、製版アート20名、Webデザイン20名、オフィス実践10名）、知的障がい者（ワークサービス30名）精神障がい者（職域開拓5名 この科のみ6ヶ月）が、1年間にわたって就労に向けて学科と実技を中心に学んでいます。特に、Webデザイン科は人気が高く、全国から応募があるそうです。就職率は、IT関連の仕事を中心におおむね70%をこえているとのことでした。しかしながら、障がい者にとって仕事の現場へ行くことが困難であったり、体力や作業持続力がより必要であったりと、就労へのハードルはやはり高いというお話でした。

福祉施設ではなく就業訓練の場である職業能力開発校は、就労という出口を目標に、実践的なカリキュラムが組まれていました。中卒から60歳ぐらいの人まで1日8時間の授業を受けます。指導員のみなさんの熱心な指導が続けられていました。

見学のあと、いくつかの質問に答えていただきました。そのひとつ、「社会生活習慣が身につけていることが職場での鍵になる」ということでした。技能は就労してからも身につけたり指導を受けたりすることはできるが、社会人としてのマナーや生活習慣については職場では対応できないとのこと、学校の指導が就労にまでつながっていることを改めて気づかされました。今後の指導に生かしていきたいと思いました。

新型インフルエンザの影響で、行事の入れ替わりがあって参加できなかった方が多かったのが残念でした。

参加者の感想

- ・能力開発校に初めて来させていただいて、子どもたちの就労に向けて参考になるところがとても多かったです。やはり、技術も大切というのはよく分かりましたが、それ以上に子どもの社会生活習慣をつけていくことの大切さをお聞きし、これからの支援の方向性やポイントを改めてつかめたように思いました。
- ・能力開発校の様子を実際に見学することができ、進路についての見識が広がりました。脳性まひの生徒の保護者が希望することも多く、なかなか生徒の実態に合わないと聞くことが多かったのですが、現実を見るとなかなか厳しいと感じました。教師自身を知ることで、やっと適切な進路指導や話ができますね。

(文責 大村)

